

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1983号 2009年08月10日(月)

《 stronger than expected but... 》

通常のリセッションからの回復時からすれば24万7000人の非農業部門就業者数の減少は回復そのものを疑うほど大きいし、9.4%への失業率の改善(6月の9.5%から)も職探しをする人が減ってしまったことによるもので数字通りには喜べない。しかしそれでも市場は、「激しい景気後退からの回復基調の確認」とこの数字を好感した。ニューヨーク株式市場のダウ平均はこの数字が発表された7日に大きく上昇、高値からは反落したものの、それでも113.81ドル高で終わった。株価指数よりも印象として上げが目立ったのはドルで、発表前は95円台の前半だった同通貨の対円相場は、ニューヨークの終値では97円台の後半となった。ドルはその他通貨に対しても上昇し、その結果円はその他通貨に対しても大幅に下落。

週末のニューヨーク市場が強かったのには、保険大手アメリカン・インターナショナル・グループ(AIG)の4~6月期決算が7四半期ぶりに黒字になったこともあるし、世界の市場の中で流動性のある大きな市場として今のところ株式市場に関心が集まっている状況もある。先週後半で注目されたのは、原油などの商品市場にも資金が流れ込んだことだが、それでも株に流れ込んでいる資金の量と比べれば小さいものと思慮される。この結果、7日の上昇を受けてニューヨーク株式市場のダウ平均の先週末引値は9370.07ドルとなり、年初来の高値を更新して、終値としては昨年11月4日以来約9カ月ぶりの水準となった。

雇用統計の中味を見ておくと、非農業部門就業者数の減少幅24万7000人は30万近い減少を予想していた市場から見れば「予想外に強い数字」となったし、この減少幅は昨年8月以来の低い水準である。それまでは月によっては70万近い減少を記録していた。今回のリセッションに入って以降にアメリカで失われた雇用は700万にも達するという説も出ていた。しかし減少幅を月ごとのチャートにしてみると、綺麗に逆山形をしていて、米雇用者数が着実にプラスに向かっていることは判る。

今回の雇用統計で特徴的なのは

1. 今までの統計では最も人減らしが目立っていたセクターは製造業だったが、今回の統計では自動車を含めて製造業での就業者数の減少幅がかなり低下したこと
2. 週当たり平均賃金が上昇して、雇用者が徐々に雇用を増やせる環境が整いつつあ

る状況が生まれていること

などだろう。こうしたことから、「今年末までに非農業部門就業者数の減少は止まるのでは」との見方が市場でも一般的になってきている。

オバマ大統領の今回の雇用統計に関する発言の特徴を言えば、「慎重さを残した歓迎」というのが当たっているだろう。彼は、「Today we're pointed in the right direction. As far as I'm concerned, we will not have a true recovery as long as we're losing jobs.」と述べている。つまり「正しい方向を指し示してはいるが、まだ職が減少しているのだから、本当の回復とは言えない」というもの。その通りだろう。大統領としては、依然として職が減っていることを忘れることは出来ない。

《 major schedule for the week 》

しかし、市場の雰囲気はもうちょっと楽観的かも知れない。ウォール・ストリート・ジャーナルによれば、先週のニューヨークの株式市場は一週間だけで2.2%も上昇したという。それが4週間続けば9%近い上げになる。やや足が速い。この足の速さは、それが短期間であれ調整を誘う可能性がある。それは今週かも知れないし、もっと先かも知れない。

注目されるのは週末に「やっと動き出した」感のあるドルだ。今までは「レンジ」との見方が強かったし、筆者もその見方だった。一部にはドルは上値追いに入ったとする見方もある。しかし、筆者は依然としてドルの上値には限界がある、との見方だ。アメリカの金利は依然として低いし、アメリカ経済にはドルの持続的上昇を支えるだけの強さは依然としてないと考える。

今週は中国に関する統計が数多く出る。今最も世界で強いとされる中国経済だけに、市場の関心が集まろう。しかし、中国経済に関しては統計の信頼性を含めて多くが語られている。その辺を加味しながら統計を見たい。

今週の主な予定は以下の通り。

8月10日(月)	日銀政策決定会合(～11日) 6月機械受注・7～9月見通し 7月景気ウォッチャー調査 7月工作機械受注 中国7月消費者物価 中国自動車買い替え補助制度の補助金申請開始
8月11日(火)	7月消費動向調査 白川日銀総裁記者会見 米4～6月労働生産性 8月日銀金融経済月報

	米FOMC(～12日)
	中国1～7月都市部固定資産投資
	中国7月貿易統計
8月12日(水)	7月企業物価指数
	6月の鉱工業生産(確報)・設備稼働率
	7月ビール・発泡酒出荷数量
	米6月貿易収支
	米農産物需給報告
	英中銀インフレ報告
	豪8月消費者信頼感指数
	中国7月小売売上高
	中国7月鉱工業生産
8月13日(木)	7月マンション市場動向
	米7月小売売上高
	4～6月期ユーロ圏GDP(速報)
8月14日(金)	6月第3次産業活動指数
	米7月消費者物価
	米7月鉱工業生産・設備稼働率
	米8月ミシガン大消費者信頼感指数(速報)

《 have a nice week 》

夏に入ったというのにまた雨にたたられたという印象の週末。土曜日は車で移動したのですが、確かに車は多い。日本道路交通情報センターのサイトで事前にチェックして移動しても、アドホックに軽い渋滞があちこちで起きる。トンネルの入り口前、上り坂、ちょっと急なカーブ。これらの場所では、誰彼となく自然と車速を落とすんでしょな。それが後ろへの玉突きのようになって、全体に渋滞が起きるのではないかと、思いました。渋滞学なんてのも面白いな、と考えました。この時期は、日頃車を運転していない人が多い。全体に気を付けて運転しないと。

相変わらず古い本を読んでいます。いろいろ面白い。「富士山」の名前の由来なども古い本に書いてあって、それにはアイヌ語で「フジ」は「山」「火の山」を意味するそうで、確かに富士山の語源説の一つになっているそう。大阪がそうであるように、日本の地名は頻りに名前を変える。常陸国風土記には「福慈」と書かれているし、やや遅れて万葉集では「不尽山」「不土能高嶺」「布二能嶺」などのいくつかの名前で登場しているという。「富士」と書かれるのは平安時代初期の続日本紀あたりが最初となるそうで、このほか「不死(不老長寿)」「不二(二つとない)」などとも書かれているという。しかし徐福も「富士山」をもって帰ることは出来なかった？

古い本を読むと言うことは、結構面白い。ウォール・ストリート・ジャーナルを読んでいたのでは身に付かない知識がある意味新鮮です。来週は休みます。それでは皆さんには良い一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》